

3. 栃木県 小山市立中央図書館

小山市立中央図書館農業支援サービス事業（平成19年度地域の図書館サービス充実支援事業）

（1）事業の趣旨・概要

図書館の機能や豊富な資料を使って関係機関と連携し、生産者・消費者への情報提供事業や、おやまブランドを全国に発信する情報発信事業を展開する。図書館が地域の情報源となることで、地域に根ざした図書館サービスを充実させるとともに、農業の活性化、地域の振興・発展への貢献を図る。また、地域のキーパーソンや関係機関とのネットワークの構築を目指す。

※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	小山市立中央図書館
	所在地	〒323-0807 栃木県小山市城東1-19-40
	連絡先	TEL 0285-21-0750
		FAX 0285-21-0755
URL http://library.city.oyama.tochigi.jp/		
図書館の概要（平成20年3月末現在）	職員数	26人（うち臨時職員7人／司書有資格者15人）
	開館時間	火～金 9:00～19:00 土・日・祝日 9:00～17:00
	年間開館日数	278日
	蔵書数	329,418冊
	利用登録者数	90,404人
	年間利用者数	（入館者）333,825人 （貸出利用者）137,452人
	年間貸出冊数	553,203冊
	運営状況	中央図書館の他、市役所の隣に分館が1館ある。職員は図書館の業務全般に携わっている。臨時職員7名は全員司書の有資格者であり、主にカウンター業務や軽レファレンスを担当している。

※地域の現況・特色

小山市は栃木県南部にあり、県内では宇都宮市に次いで第2位の人口をもつ都市である。県内有数の農業地帯であるが、開発中のニュータウン地域もあり、人口増加がこれからも見込まれる。
面積：171.61km² 人口16万3千人

（2）事業の実施体制

事業の実施にあたっては、「おやまビジネス支援連絡会」を母体として「小山市立中央図書館農業支援サービス事業実行委員会」を組織した。

<委員構成>

市立中央図書館長、小山農業協同組合企画管理部総務課調査役、小山農業協同組合営農部審議役、小山商工会議所事務局次長、地区商工会関係者3名、大学経営学部教授（ビジネス開発研究所長）、小山工業高等専門学校地域連携室長、関東職業能力開発大学校援助計画課企画主幹、市経済部長、市農政課農業振興係長、市農政課主任、市商業観光課主査、市工業振興課主任、市教育委員会生涯学習課主査、市中央公民館主査、エコまちづくりフォーラム（株）代表取締役 計18名

<主な役割>

中央図書館職員が企画した事業に対しての助言、事業実施にあたっての連携・タイアップ

(3) 事業体系

実施した事業は下記の4つである。

①生産者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> i 農家向けの図書館案内パンフレット作成 ii 農業支援コーナーの設置・充実 iii 「農業なんでも相談室」の実施 iv 「農家・消費者のためのインターネット講習会」開催
②消費者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> i 「おやま地産地消ライブラリー」の作成 ii 図書館内での農業関係資料や特産物の紹介 iii 関係機関との連携による農業支援のPR iv 「消費者のための食の安全講座」の実施 v 「地産地消のお店」メニューの収集 vi 「としょかん朝市」の開催
③農業ビジネスの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> i 農業ビジネスの資料提供、関連図書リストの作成・配布および専門窓口の紹介 ii 「農業ビジネス講座」の実施
④おやまブランドの全国発信	<ul style="list-style-type: none"> i 支援事業の広報紙および公式ホームページでの広報・報告 ii ケーブルテレビとの連携およびマスコミへの情報提供 iii 市内小・中学校での総合学習教材としての利用促進 iv 「おやま地産地消ライブラリー」の充実

(4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

平成16年度小山市職員による自主研究グループの政策提言「ビジネス支援体制の構築について」が市の政策として有効であると認められ、平成17年度より「ビジネス支援バックアップ事業」を図書館で展開している。これにより、ビジネス支援コーナーやデータベース・インターネット検索ができるパソコンルームを設置するなど館内が整備された。また、「おやまビジネス支援連絡会」と連携して各種事業を実施し、主催したセミナーから起業家が6人（うち2人は農業関係）誕生するなど成果を上げている。

一方で、50代～70代男性の利用が増加傾向にあり、また、平成17年10月から市の重点事業として開始した「ビジネス支援バックアップ事業」により、さらに男性の利用が増加した。そこで団塊世代をターゲットとして、地域のキーパーソンの生き方支援をしていきたいと考えた。また、団塊世代の男性は地域になかなか溶け込めず、図書館が地域デビューの場になっているケースが多いため、図書館が地域コミュニティの場の1つになっている。

そのような状況でビジネス支援と生き方支援を考える中で、小山市のオリジナリティを出すために、地域の大きな課題である農業にスポットを当てた事業を展開したいと考えた。

(5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

①生産者への情報提供

i 農家向けの図書館案内パンフレット作成

これから農業を始めようと思っている人や農業に興味のある人、農家・生産者を対象とした農業支援案内パンフレット「農業支援コーナーへようこそ！」を作成し、館内に設置・配布した他、関係機関を通じても配布した。また、農業支援に関する各コーナーの館内配置図と関連資料のブックリストを表裏印刷にした「農業支援コーナー」パンフレットも別に作成した。

○「農業支援コーナーへようこそ！」—農業支援コーナーの説明の他、レファレンス・相談事業やデータベースの案内を入れた。

○「農業支援コーナー」—片面に農業支援関連コーナーの案内図、片面にテーマ別ブックリストを掲載した。

【工夫のポイント】

- 「図書館は小山の農業を応援します」をキャッチフレーズとし、図書館が農業を支援することを積極的にアピールした。
- ブックリストはテーマを変え、毎月発行した。
- ⇒ブックリストごとに用紙の色を変え、全種類を常時コーナーに設置している。

<作成したブックリスト>

「農家・生産者のためのブックリスト」「農業を始めた人のためのブックリスト」「食育について知りたい人のためのブックリスト」「農業ビジネスを知るためのブックリスト」「食の安全について知りたい人のためのブックリスト」「グリーンライフを楽しみたい人のためのブックリスト」「様々な食糧問題について知りたい人のためのブックリスト」「野菜づくりについて知りたい人のためのブックリスト」「農業を応援します！ブックリスト」



「農業支援コーナーへようこそ！」



館内案内図



テーマごとのブックリスト

←表裏印刷→

ii 農業支援コーナーの設置・充実

「始めてみよう農業」「食の安全について考える」「農業の基礎知識・栽培方法」など、テーマ別に農業に役立つ本を集めたコーナーを設置した。また、商用データベース「ルーラル電子図書館」を導入した他、市農政課からの寄贈により「日本農業新聞」を受け入れ、閲覧できるようにした。

【工夫のポイント】

コーナーの存在を館内のサインで大きく表示して、目立つようにした。



農業支援コーナー



館内の案内サイン

iii 「農業なんでも相談室」の実施

J Aおやま、栃木県下都賀農業振興事務所と連携し、中央図書館を会場に農業に関する相談会（1人1時間を限度とした個別相談）を3回実施した。連携事業のため相談員の派遣は無料で行われた。

対象：農家・生産者、家庭菜園や農業に興味がある一般市民

方法：図書館が受付し、事前に相談内容を相談員（J Aや農業振興事務所職員の専門家）に伝達。図書館職員は内容に応じた資料やデータベース、インターネット情報などを準備し、利用者に提供した。

主な相談内容：農地の貸借に関する相談、新規就農に関する相談、JAS法についての相談、PH計の使い方、小山の食材に関する相談、敷きわらに関する相談、家庭菜園での野菜・果樹等の育て方についての相談、市民農園についての相談

⇒各回とも定員一杯になった。相談員による対応と図書館資料、データベース・インターネットなどの活用により、ほぼその場で対処できた。

専門的な内容については、J Aおやま、栃木県下都賀農業振興事務所に引継いだ。

※20年度も継続



iv 「農家・消費者のためのインターネット講習会」開催

商用データベース「ルーラル電子図書館」とインターネットの使い方講習会を実施し、データベースの使い方を多くの人に知ってもらった。ボランティアの協力で講師の派遣は無料で行われた。

対象：農家・生産者、一般市民

※20年度も継続



②消費者への情報提供

i 「おやま地産地消ライブラリー」の作成

小山市の農産物や特産物を一元的に把握できるホームページを作成した。図案、設計は職員が行い、一部は業者に委託した。内容の更新は職員が行っている。

⇒アクセス数は少しずつ伸びているが、市民からの反響が少ないので、より一層の工夫が求められる。将来的には、学校の総合学習の授業で活用されるようにしたい。

【工夫のポイント】

○小山市の農産物の生産高や特色を表示した。

○地元で採れる農産物を使った料理を紹介し、市民からも材料・作り方等の情報を募集した。

○「農業クイズ」なども取り入れ、子どもたちも楽しめるように工夫した。



トップページ



農業クイズ

ii 図書館内での農業関係資料や特産物の紹介

館内入口付近にコーナーを設け、農業の重要性や食の安全・食育等をアピールするための資料を展示した。また、関連するブックリストを作成・配布し、ホームページでの公開も行っている。

【工夫のポイント】

- 「おやまブランド特産品コーナー」—おやまブランドや小山の特産品、加工品を展示している。
- 小山の農業が一目でわかるパネルと本物の二条大麦・はとむぎを展示している。
- 関連する様々なチラシ・パンフレットをコーナーに設置し、新聞記事やポスターは掲示している。

おやまブランド特産品コーナー



小山の農業の生産地・生産物パネル



プランターで育てている
本物のはとむぎ



本物の二条大麦・はとむぎの展示



農業の重要性や食の安全・食育等に関する
パンフレット・チラシ・新聞記事等の掲示や設置

iii 関係機関との連携による農業支援のPR

「小山市農業祭」に参加し、テント半分のスペースのブースで農業支援サービスのパネル展示やデータベース「ルーラル電子図書館」の紹介を行った。また、職員は農業支援コーナーのパンフレットやブックリスト・利用案内などを配布した。

⇒図書館職員が出前でサービスの案内をするのは、はじめての試みだった。多くの人が農業支援サービスはおろか図書館の多様なサービスを全く知らない状況であり、また図書館の存在すら知らない人がいたことに職員は衝撃を受けた。そういう人たちに対し、図書館の利用価値をアピールした効果は大きい。



20年度の農業祭の中央図書館ブース

<20年度の取り組み>

20年度も「小山市農業祭」に参加し、利用案内などを約300部配布した。また、新規に「おやま地産地消・食育フェア」にも参加し、同様にPRを行った。

iv 「消費者のための食の安全講座」の実施

食品表示についての基礎知識など、食についての初歩的な内容の講座を県下都賀農業振興事務所と連携して実施した。連携事業のため講師の派遣は無料で行われた。

⇒19年度は食品偽装が問題となった時期と重なり、定員を上回る参加（参加者20名）があった。内容も好評で、継続開催の希望が多く出された。

※20年度も継続

【工夫のポイント】

講座やセミナーは、人数を多く集めるものと参加者同士のネットワークができるようにするもので、定員の設定を分けている。内容を深め、参加者同士のネットワーク化を意図している講座等は、最初から定員を15名～20名くらいに設定し、そのことで質問の時間を多く取れるようにしている。また、関係をその場限りのものにしないため、必ず自己紹介や情報交換の時間を設けている。

★人と人をつなぐのも図書館の重要な役割だと考えている。

v 「地産地消のお店」メニューの収集

小山産の食材を使用している店のメニューを収集し、情報提供をしている。どんな食材を使ってどんなものを作っているかを明示し、地元食材への理解が深まることを意図した。「おやまブランド特産品コーナー」で閲覧できるようにしている。

⇒よく利用されていて、当該店への集客効果や地域の活性化にもつながるものと期待している。7店からスタートしたが、口コミや市民の紹介などにより徐々に増えている。今後もPRしメニューを増やしていく予定である。

「地産地消のお店」のメニュー



vi 「としょかん朝市」の開催

J Aおやま販売課の協力で、中央図書館正面入口前で市民に小山産の新鮮な農産物を販売した。テント・テーブル等の設置、販売はすべてJ Aおやまが担当し、小山産はとむぎを使ったはとむぎ茶の無料サービスも行われた。図書館職員は農業支援サービス事業のPRを行った。

⇒300人超の来場者で大変賑わった。午前9時から開催し、正午にはほぼ完売した。小山産の農産物への理解が深まり、はじめて図書館に来館した人に対しては図書館利用のPRにもなった。図書館を会場にした新たな試みで、新たな連携の可能性が拓け、新たな利用者層の拡大につながった。図書館職員は来場者を館内の農業支援コーナーに誘導し、説明・案内を行って図書館の活用をPRした。

※20年度も継続

★図書館の資料・機能を有効活用し、効果的な情報提供や他機関と連携した地域振興を今後も模索していく必要がある。

としょかん朝市の様子



③農業ビジネスの情報提供

i 農業ビジネスの資料提供、関連図書リストの作成・配布および専門窓口の紹介

「農業ビジネスについて知りたい、始めたい」という生産者・消費者向けにブックリストを作成・配布し、資料情報や資料の提供を行った。また、J Aおやま、県下都賀農業振興事務所と連携し、窓口を紹介できる体制も整えた。

⇒ブックリストに対する反応はよく、配布用のものはよく利用されている。

【工夫のポイント】

農業支援コーナーをビジネス支援コーナーやパソコンルームの近くに設置し、様々なビジネス情報へもアクセスしやすいように工夫した。



ビジネス支援コーナー

ii 「農業ビジネス講座」の実施

栃木県農業振興公社の「ふるさととちぎ 21 活性化塾アドバイザー」制度を利用し開催した。農産物の直売所から農村レストランの経営、体験農業の開始や新しい事業への挑戦などについて、講師の体験をもとに講座を実施した。県農業振興公社との連携により無料で開催できた。

⇒参加者から「非常に参考になった」と好評だった。

④おやまブランドの全国発信

i 支援事業の広報紙および公式ホームページでの広報・報告

職員手製のバッジ

「図書館が農業を支援する」ことを市の広報紙「広報小山」、公式ホームページ、図書館ホームページで広報した。農業支援の図書館利用案内パンフレット「農業支援コーナーへようこそ！」を館内に設置し、また関係機関を通して配布した。「図書館は小山の農業を応援します！」をキャッチコピーとし、担当職員は職員手製の赤いバッジを身に付けてPRに努めた。

⇒小山公式ホームページに行事予定や開催報告などをリアルタイムにアップロードし、多くの市民の目に触れるようにした。アクセス数も徐々に増加した。



ii ケーブルテレビとの連携およびマスコミへの情報提供

市長の定例記者会見等を活用し、各種マスコミへ積極的にPRした。

⇒朝日新聞、読売新聞、東京新聞、下野新聞、日本農業新聞等に関連事業記事が掲載された。また、とちぎテレビ、テレビ小山、NHK ラジオ第一で事業の様子等が放送された。

★マスコミに取り上げられたことで反響は大きく、他自治体からの問い合わせも多く寄せられた。

iii 市内小・中学校での総合学習教材としての利用促進

農業支援コーナーや「おやま地産地消ライブラリー」を総合学習や産業学習に活用されるよう、市内小・中学校に働きかけた。

⇒小山の特産品やおやまブランドへの理解も深まり、地元への愛着も深まった。

iv 「おやま地産地消ライブラリー」の充実

関係機関や市民の協力により、内容を随時充実させた。小山の食材を使ったメニューの紹介など、新しいおやまブランドの情報をいち早く提供した。

⇒小山の特産品やおやまブランドの全国発信へとつながった。また、相互リンクの申し出もあった。

(6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

i 関係機関とのネットワークの構築により事業を拡充できた

○関係機関との連携により様々な事業協力、相互の情報提供が進められた

J Aおやま、県下都賀農業振興事務所、県農業振興公社との連携により、様々な事業を展開できた。また、相互の情報提供が進められたことにより、以前に比べ、特に呼びかけなくても関係機関からの情報がより多く集まってくるようになった。関係機関に図書館が情報発信基地であるという認識をもたれるようになったと推察される。

○関係機関との連携により市民に対して情報提供をはじめとする様々な図書館サービスを提供できた

図書館は資料の提供だけでなく、利用者が気軽にいろいろな相談をできるしくみづくりや機会の提供も重要であり、図書館はこれから何かを始めようとするときのきっかけづくりの場や、専門機関を紹介するという橋渡しの役割も求められている。関係機関との連携によりその役割を果たすことができた。

ii 図書館サービスが地域振興や暮らし支援に役立つことを実証できた

○実施したセミナー・講座・相談事業等がすべて好評だった

セミナー・講座等受講者に終了後に行ったアンケートでは、すべての講座で「非常に参考になった」「まあまあ参考になった」の評価をつけている人が全体の90%以上を占め、継続開催を望む声も多く、図書館の農業支援事業が暮らしに役立つことを実証できた。また、図書館の新たな利用者層の開拓にもつながった。

○農業支援サービス事業が農業の活性化や地域振興に貢献できることを実証できた

実際にセミナー受講者で起業したり店を始めた人が何人もいて、図書館の活用による市民の成功事例が出ている（農業関係者は2名）。それらの人たちは農業支援コーナーでも必要な情報を得たということを口伝えで聞いている。

iii 図書館のもつ様々な機能を広くPRできた

○図書館が関係機関・団体の行事等に参加し、サービスの周知に努めることによるPR効果は大きかった。

「小山市農業祭」や「としょかん朝市」において、図書館サービスの案内を行った結果、図書館未利用者層にも図書館の様々な利用方法・利用価値をアピールできた。

○市の他の部署から図書館の利用価値が評価された

市の他の部署からも図書館の取り組みに関して評価されるようになり、各部署の仕事に関わる調べものを依頼される機会が増え、また、事業への参加を勧誘されたりするようになった。

★図書館は情報発信基地である＝あらゆる機会・方法を利用して情報を収集・提供・発信する

【成功のキーポイント】

○関係機関とのネットワーク構築を重視した

従来、図書館のネットワークは教育委員会の中だけで完結していたが、市の経済部とも連携し、また、外部機関とのネットワークが構築できたことが本委託事業の成功の鍵となった。

★農業支援サービス事業は「人と人」「人と関係機関」をつなぐ役割を果たしている。

○講座やセミナー等の受講者に対するアフターケアに配慮した

受講者に対しては、1回きりの関係に終わらず、常に図書館から継続して情報提供を行っている。また、受講者のその後の状況をキャッチし、企業・開店などの情報はHP等にアップするなどして、相互に情報をやり取りしている。さらに、受講者同士の関係づくりにも常に配慮している。

②事業実施後の取り組み

19年度の事業委託期間に行った事業については、すべて継続・充実させている。20年度は新たに「おやま地産地消・食育フェア」にも参加し、資料を配布して図書館のPRに努めた。

(7) 課題と今後の展望

①課題

具体的な課題としては、次のことが挙げられる。

i 「おやま地産地消ライブラリー」の充実

学校の総合学習などに積極的に利用されるよう、「おやま地産地消ライブラリー」の充実が必要である。

ii 館内入口付近の農業関係資料展示や特産物紹介コーナーの充実

利用者には小山の農業がよくわかると好評だが、配布する関連資料や展示内容の更新が必要である。

iii 図書館サービスのさらなるPR

従来は利用者が図書館に来館するのを「待っている」サービスであったが、今後は図書館が「出かけていく」ことも必要である。図書館は単に本を貸すだけの施設ではなく、調査・相談など、様々なサービスがあることを市民にもっとアピールする必要がある。

②今後の展望

今後も今までの事業をすべて継続・発展させていく予定であるが、主に次のことに留意して取り組んでいく予定である。

i 授業での活用を踏まえた「おやま地産地消ライブラリー」の充実

平成 21 年 4 月、市内小・中学校 38 校の学校図書館の資料データがオンライン化される予定なので、「おやま地産地消ライブラリー」が学校の授業にも活用されるよう、子どもたちを視野に入れたホームページづくりに取り組んでいきたい。

ii 「農業なんでも相談室」の充実

「農業なんでも相談室」は 20 年度も年 3 回実施したが、ニーズが高く、各回とも予約で定員が埋まり、すべての希望者を受け入れられなかった。JA や農業振興事務所と引き続き連携し、回数を増やし充実させる方向で働きかけたい。

iii 団塊の世代の能力活用をバックアップする事業の展開

現実的に団塊世代の利用も多く、図書館がシニア世代の地域デビューの場にもなっているため、団塊世代の能力活用をバックアップしていく事業に取り組んでいきたい。

iv 職員のスキルアップによるサービス内容の充実

ビジネス支援事業や農業支援事業に取り組み始めて、職員の意識も少しずつ変わってきた。今後も「市民や地域に役に立つ図書館」を目指し、サービスの充実に努め、職員のスキルアップを図っていきたい。そのためには、常に市民のニーズをキャッチし、サービスの内容を充実させていくことを心がけたい。